

道徳便り

鹿島小学校 No.4

令和4年11月1日

10月11日には、3年1組での研究授業が行われました。授業の様子をお知らせします。

○教材名「わたしだって」 ○価値項目「相互理解、寛容」

○授業の概略

図画工作の時間、けい子は、絵の最後の仕上げをしていた。突然、けい子の右肘に何かがぶつかり、そのはずみでにぎっていた絵筆を落としてしまい、丁寧に書かれていた部分が塗りつぶされてしまう。ぶつかった修は何度も謝るが、けいこの目からは涙がこぼれ、ずっと黙ったままであった。

その日の夜、けい子は家族と食事に出かけた。けい子は、走ってトイレに向かう途中にジュースを持って歩いてきた小学6年生ぐらいのお姉さんとぶつかってしまう。お姉さんは、「だいじょうぶ、ぬれなかった？ごめんね。」とけい子に謝る。そして、けい子は学校であったことを思い出す。

失敗は誰にでもあり、それを許す心も必要であることが分かり、誰に対しても「広い心」をもって接していこうとする心情を育てる授業です。

○授業を振り返って

始めに、「友達の失敗で嫌だなど思ったことはありますか。」という教師の質問から始まりました。「新しい服にすみをつけられたことがあって、悲しかった。」などの発表がありました。「相手が謝ったらどうする？」と、問うと、「許せない。」という答えが出てきました。そこで、教師が「相手からしたら許してほしい気持ちはあるよね。」と問い返し、「相手を許す心は、どのようなことだろう。」となり、授業が始まりました。



今回は、お話を前半と後半に分け、場面絵を使い、内容を理解できるようにしました。次に、「失敗を許す心」を考えるためにお姉さんは、なぜ、謝ったのかについてワークシートに考えを書きました。最後に、グループになって「失敗を許す心」について考えたことを付箋紙に書いていきました。国語科でも付箋紙を使って考えを交流する学習をしてきたので、どのお子さんも意欲的に書くことができました。また、友達の考えを互いに見ることができるので、自分と友達との考えの違いにも気付くことができました。

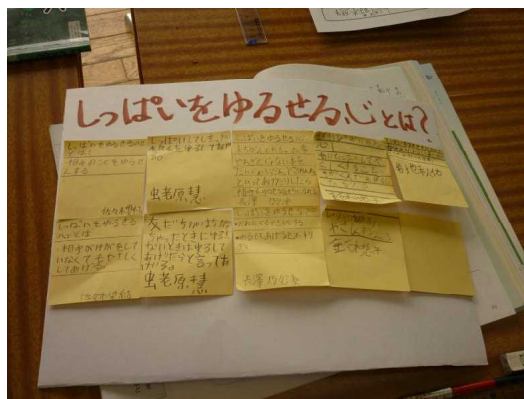
～広い心について話し合った後の感想～

- ・相手が間違ってしまったときには、許してあげたいと思いました。
- ・自分だって気をつけていないと失敗してしまうことがあるから、友達の失敗も許してあげたいと思いました。
- ・私も、お姉さんのようなやさしい心を持ちたい。
- ・もし、私がけい子だったら、次の日修君に「ごめんね。」と声をかけてあげて許してあげたい。

以上のような感想があり、今後、失敗を許し、誰に対しても「広い心」をもって接していこうとする心情が高まっていたようです。

今後も、他教科と関連させながら指導を続けていきます。

ふせん紙に自分の考えを書いて積極的に話しています。



たくさんの友だちの考えが集まりました。

